

檜葉町駐在現地確認概要(平成30年2月5日～2月9日)

確認日	確認目的	確認箇所	確認状況	プラント関連パラメータ
2月5日	3号機原子炉建屋燃料取り出し用カバーの設置状況の確認	3号機原子炉建屋西側	<p>○3号機の使用済核燃料プールからの燃料取り出しに向け、原子炉建屋上部を覆うドーム状の屋根カバーの設置作業が進められており、今回、ドーム屋根8枚のうち、7枚目の設置作業が行われたことから、現場確認した。</p> <p>これまで2個のドーム屋根の部材を1個ずつ吊り上げ、屋上で1枚のドーム屋根に接合する工法であったが、今回は地上で接合された1枚のドーム屋根を2機の大型クレーンを使って吊り上げる作業が行われた。</p> <p>ドーム屋根の吊り上げ開始から屋上に着床させるまでの間、トラブルが発生することなく、順調に行われたことを確認した。</p>	9時24分現在
2月6日	サブドレン処理水排水状況の確認	免震重要棟集中監視室 サブドレン処理水一時貯水タンク、移送設備、バルブユニット	○サブドレン一時貯水タンクからの排水操作に立ち会い、水質が確認されたタンクから定められた手順により排水が行われていることを確認した。	9時16分現在
	サブドレン海水サンプリング状況の確認	5、6号機放水口北側	○サブドレン排水に伴う海水サンプリングに立ち会った。福島県測定分も含めて5本採取した。	
2月7日	第二セシウム吸着装置(SARRY)の起動停止に係る対応状況の確認	免震重要棟	○2月7日午前10時頃、停止していたSARRYを起動したところ、電源系の異常が確認され手動停止した事象が発生したことから、初動対応の状況について情報収集した。 東京電力社員によると、停止していたSARRYを起動したところ、起動操作直後に変圧器から異音及び火花の発生が確認されたため、SARRYを停止したとのことであった。	10時14分現在
	危険体感訓練施設における訓練状況の確認	危険体感訓練施設	○平成28年12月4日に発生した2号機・3号機SFP冷却停止及び同年12月5日に発生した3号機原子炉注水ポンプ停止を踏まえた再発防止対策の水平展開の一環として、危険体感教育の充実が掲げられ、危険体感訓練施設において、狭隙部体感訓練等が実施されていることから、訓練の状況を確認した。 前回確認時(H28.2.15)に確認した体感施設に加え、パネル掲示や事象の内容等の説明、軽微な接触による事象発生への体感、解説が加わり、研修内容が充実されたことを確認した。	
2月8日	第二セシウム吸着装置(SARRY)の起動停止に係る現場の状況確認	HTI建屋	○平成30年2月7日に変圧器の異常によりSARRYが停止しているため、現場の状況を確認した。 確認時、現場では異常のあった変圧器を経由させない電源ルートを確認するための作業が行われていた。現場にいた東京電力社員によると、2月8日午後1時に電源を復旧させ、夕方にSARRYを起動させる予定とのことであった。なお、異常の原因は調査中であるが、導体接合部の溶接が不十分であった可能性が高いとのことであった。	14時13分現在
	雨水移送システムの漏えい状況の確認	H1東タンクエリア東側	○2月8日、H1東タンクエリアの東側付近において、雨水移送ラインからの漏えいが発生したとの情報を得たことから、現場確認を行った。 現場にいた東京電力社員によると、移送ホースの接合部が外れて水が漏えいし、水路に流入したとのことであった。当該水路に沿って下流を確認したところ、途中、土のうにより閉塞されており、なおかつ水路が終わっていたことから、漏えい水が下流へ流出するおそれがないことを確認した。	
2月9日	1,000tノッチタンク群の状況確認	1,000tノッチタンク群エリア(既設ALPS建屋南側)	○1,000tノッチタンク群(三ブロック目)の状況について、東京電力から聞き取りするとともに現場確認を行った。 当該タンクには、汚染水タンクエリアの堰内に溜まった雨水等を貯留しており、現在残水処理のため、バキューム車で3号機タービン建屋へ定期的に移送しているとのことであった。今年中に処理が完了する予定であり、今後新たに受け入れする雨水等はないとのことであった。現場確認したところ、当該タンクは、プラスチック製の波板及びシートで覆われており、すべて鋼製の堰内に設置されていた。また、タンク間はホースで連結されていた。 現場で目視した限り、タンクから雨水等が漏えいしている様子は確認されなかった。	10時10分現在

※プラント状況については、プラント関連パラメータをご参照ください。